

## 報 告 書

2014年 10 月 17 日

望月 厚司 様

議員名 栗田知明 望月厚司 中山道晴 佐藤成子

下記のとおり、政務活動費による視察を実施したので、ご報告します。

1 日 時	2014年10月8日（水）～10月10日（金）	
2 視 察 先	(1) 都 市 名 視 察 先 施 設 等	高知市（高知県立県民文化ホール） 第76回全国都市問題会議
	(2) 対 応 者	第76回全国都市問題会議 主催 全国市長会・後藤、安田記念東京都市研究所・日本 都市センター・高知市 協賛 全国市長会館
3 目 的	毎年開催されるこの会議に参加し、他都市の現状や課題を共有し、わが市と比較検討、課題を探り、都市経営に提言出来ればとの目的で参加する。本年度のテーマは、『都市と新しいコミュニティー』～地域・住民の多様性を活かしたまちづくり～	
4 内 容	<p>(調査事項・調査結果を具体的に)</p> <p>一日目は、基調講演・主報告・一般報告が行われ、2日目にパネルディスカッションが開催された。</p> <p>基調講演：山本一力氏（作家） 『生き方雑記帖2014』</p> <p>世の中、どこへ向かおうとしているのか？物はそんなに無くてもいい。いる時いる物が使えればいいはずだ。多様化する価値観の中で、自分がいかに、気を付けて、無い道を歩くか、人生はそういうものだと学ぶべきだ。唯一確かなのは、確実に死に向かって生きているということだ。わきまえよ。足るを知れと後世世代に伝えていかなければならない。</p> <p>自分が加害者にならないために60歳で免許を返納した。体の衰えも感じたし節目の年だった。ずーとアメリカの友人（女学生のころから）と文通をしていて、お互い64歳で、50年ぶりに、初めて会った。アメリカは定年がないので、精神科医として働いていた彼女と、仕事をしてるということは良いことだね～と同感した。このアメリカは、自己責任の世界。アメリカの高速道路は無料だが、休憩所もないし夜は真っ暗な道路だ。政府の考えは、道路はつくりました、後は、自分の責任で走りなさい。ということで、片側が深い谷底みたいなところにもガードレ</p>	

ールがないのです。日本人は甘やかされている。しっかりとした価値観を大人が伝え、子どもを大人にしていく必要がある。山に登るということはどういうことか。御嶽山の噴火もあり得るということで、登る側に責任があると思う。山はそういうものだという概念が必要だ。自己責任の大切さ、社会の役目はそれをわきまえさせることだ。かつて我々は、川で泳いだ、おぼれることもある、責任は自分で取れるように、大人は戒めていた。それを教えていた。何事もやるのは勝手だけど、自分で責任を負うことができるかを見極めさせるのが大人の役割だ。大人たちが、世の中が、いさめないのは問題だ。

### 『主報告』新たなコミュニティーの構築をめざして

岡崎誠也 高知県高知市長

高知市は、中山間地域、田園地域、都市部がバランスよく調和した地方中核都市だ。よさこい祭りは、日本国内だけではなく海外まで発信力が広がっている。幕末の志士たちの自由民権運動などの反骨精神は現代の市民に受け継がれ、様々な地域コミュニティ活動に生かされている。

”市民と行政のパートナーシップによるまちづくり”

平成6年から、各地区のコミュニティ計画の策定に向け活動開始。その為の、一般公募のコミュニティ計画策定市民会議を組織した。28地区1300人の市民参加と11チーム106人の若手職員のまちづくりパートナーが、共に策定にあたり参画。市民と行政の役割分担と協働についてルールを定める。それが、高松市市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例だ。22年には、地域コミュニティの再構築の取り組みを開始。地域内連携を目指している。その為には、人材が必要。地域活動の担い手の育成人づくりを始める。コミュニティ計画推進市民会議が策定会議を母体に誕生。その後、若手により高知市まちづくり未来塾が結成された。県内外とのまちづくりグループと交流も図り、参加者の輪を広げている。活動拠点として、高知市市民活動センターを設置し支援している。高知市が3000万円を地元銀行から出捐し、公益信託高知市まちづくりファンドを創設し、これまで108の団体に助成している。又、支援事業として、こうちこどもファンドを設立し子供たちのまちづくり参加にも力を注いでいる。また地域の防災強化のために、自主防災組織の結成率を100%になるようにすすめている。並行し防災人づくり、防災士の養成も行っている。又、すべての学校に、高知市地震・津波防災の手引きを配布した。その結果、地域の見守り、助け合い活動、ミニディーサービスの取り組みや子育て広場、母親サークル活動などなどが防災活動のみならず、当事者意識で自主的な活動に広がりを見せている。平成25年には、高知市地域福祉活動推進計画も策定。いきいき百歳体操やかみかみ百歳体操が福祉活動として根付いてきている。これは介護予防の目的でスタートしたもの。

	<p>特筆すべきは、こうち笑顔マイレージ。ボランティア活動の実績に応じてポイントを付与する介護ボランティア制度。参加者が増加中。地域の大きな課題としては、人間関係の希薄化などもあるが、生活困窮者のこと、子供まで及んでいる。新たなコミュニティの構築には、人、人のつながりが何よりも大切なこと。誰もが住み慣れた場所でいきいき暮らせるコミュニティの構築をめざしていききたいと締めくくられた。</p> <p>その後、一般報告や研究事例の紹介、二日目のパネルディスカッションと続いた。</p>
<p>5 成果・市政への反映等</p>	<p>人間関係が希薄化している中での地域でのコミュニティの再生はとても大変なこと。労力が必要だ。行政も市民も。人口減少も叫ばれる中、いかに自分達の生活を自分達で守っていけるのか、考えなければならない、どこの地域も大きなテーマであると改めて実感。高知市長の話をつき、わが市でも行っている事やこれから見習うべきことがわかる。地域で活動できる組織づくりができていて、これは自治会単位ではないところがわが市との違いだ。既存の組織にゆだねれば何でも簡単かもしれないが、それでは、活動する人達が限られ、その人達に負担が集中する。高齢化も進み大きな課題だ。いかに新しい組織を作っていけるか、人材養成ができるかが大事なことだ。人材育成にお金をかけている静岡市。その活用が下手だと思う。地域に散らばったそれらの人材を活用し、地域のファシリテーターとして使えばいいのではないかと。高知より先をいっていると思うので。一方、ポイント制・笑顔のマイレージは、まさに共助の形だ。これは、わが市にもぜひ取り入れたい仕組みと思う。自分ができる時にボランティアに参加し、その後はこのポイントで助けていただく。気兼ねなく利用できる福祉サービスだ。介護予防に直結し、軽度の介護の必要な場合の手助けになる仕組みと思う。</p> <p>山本一力氏の講話、自己責任・価値観のお話はとても興味があった。人材は家庭にあるというサッチャー氏の言葉も耳に響いた。子どもの頃に叩き込むべき自己責任の概念。しっかりとした価値観の伝授等今を生きる者として、大人として、反省させられた。様々な生活の中で、わきまえさせていくのは社会の責任だという言葉が重くのしかかりました。これも人づくりの大切さと理解し、人材育成に活かしていかなければと思いました。</p>

(注)

- 1 この別紙は、視察先ごとに作成すること。
- 2 連名により作成することも可能。
- 3 この様式により難しい場合は、別の様式によることができる。